

『のんびり洋書めぐり』



Ehon House

(株)岩崎書店 絵本の家事業部 英語教育担当
館野佐知子

■ 小学校国語教科書掲載作品の原書を届ける！

2020年に小学校の国語教科書が改訂された。絵本の家でもドキドキワクワクする出来事である。というのも、新しい国語の教科書にお話が掲載されたり紹介されたりしている海外絵本作品の英語版の中で、現在日本に輸入することができる絵本を調べる仕事が待っているからだ。

教科書に掲載されている168タイトルの中から、できるだけ複数の教科書にわたって掲載されている絵本を優先しながら、「絶版になっていないか?」、「ハードカバー版はあるか?ソフトカバー版なら入手可能か?」など、海外の出版社と連絡を取りながら仕入担当者がコツコツと状況を調べてくれる。

そうしていよいよ入手可能な絵本のサンプルの手配が始まり、最終的に66点の英語絵本のラインナップとなった。国語の教科書で取り上げられた絵本はどれも内容がよくて、出版年やジャンルにも広がりがある。まるで絵本のオールスターだ。前回の改訂の時にはなかった洋書絵本もあるので見逃せない。



小学校国語教科書に紹介された本

■ みんなに愛される有名絵本作家

教科書掲載絵本の中で不動の地位を確立しているといっても過言ではないお馴染みの絵本作家、レオ・レオニ。 **Frederick** (邦題:フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし) や **Swimmy** (邦題:スイミー 小さなかしいさかなのはなし) をはじめ、今回もバラエティー豊かなお話が揃っている。私のお気に入りには **Cornelius** (邦題:コーネリアスーたってあるいたわにの はなし) だ。自分らしく生きていいよねと思わせてくれる楽しい絵本だ。(写真②)



写真①:直営店でもフェア「小学校国語教科書に紹介された本」



写真②:バラエティー豊かなレオ・レオニ作品



アーノルド・ローベルの「がまくんとかえるくん」のシリーズも定番中の定番だが、読むたびにクスッと笑ってしまう **Owl at Home** (邦題：ふくろうくん) や、**Small Pig** (邦題：どろんここぶた) が今も変わらず入っているのがまたうれしい。ローベルの本はお話がユニークで読みやすく、英語多読にもピッタリだ。(写真③)

■ ストーリーの面白さならこれ!

筋書きの展開の楽しさといえば! **Caps for Sale** (邦題：おさとぼうしうり)。何度でも笑える作品だが、1940年が初版と聞いたら子どもたちもきっと驚くに違いない。ユーモラスで不思議とおしゃれな感じがするイラストで、繰り返しを上手に使ったリズムカルな文章は英語での読み聞かせでも人気だ。サルたちに盗られてしまった帽子をどんな風に取り返すのかが見どころ。楽しくて、挿絵が魅力的で、英文のリズムが良いと三拍子揃ったいい絵本だと思う。

Sylvester and the Magic Pebble (邦題：ロバのシルバスターとまほうの小石) もとてもドラマチックなお話。ハラハラドキドキする展開なのだが、最後はハッピーエンドでほっとできる。少し文章は長いですが、こんな作品に挑戦すると楽しみながら英語の読解力向上を目指せそう。

昔話や民話は、ピンチがあり、恐ろしさもあり、ユニークな解決策となるほど! という結末ありで、英語で読んでもお話の面白さが分かりやすい絵本。ノルウェーの昔話という **The Three Billy Goats Gruff** (邦題：三びきのやぎのがらがらどん) や **Stone Soup** (邦題：せかいいちおいしいスープ) はロングセラーで絵本としての人気も高い。



写真③：みんな大好きアーノルド・ローベルの作品

その他、『ちいさいうち』で有名なバージニア・リー・バートンの **The Emperor's New Clothes** (邦題：はだかの王さま) は、アンデルセン童話をまるでバレエの舞台を見るような見事な作品にしている。衣装や街並み、パレードの様子もとても素敵に描かれていて、物語にさらなる魅力を加えているのだ。(写真④)

■ 英語の授業にも役立つ科学絵本

教科書に取り上げられるお話の中には、自然科学を題材にした読みやすく芸術性の高い絵本も多いことに気が付く。ストーリー性を持たせながら科学的な情報をやさしく盛り込み、子どもたちの興味



© Text and photos copyright © 2009 by Mark Cassino / Illustrations copyright © 2009 by Chronicle Books LLC

や関心を上手に引き出す役割を担っていて、大人の好奇心をも満足させる充実した内容だ。

The Story of Snow (邦題：雪の結晶ノート) は美しい雪の結晶の写真と要点を押さえた分かりやすい文章で雪の秘密を解き明かす絵本だが、実は英語の学習として使うのにもとても適している。基本的な動きや形を表すことばなどがふんだんに出てきて、自然の不思議やすばらしさに出会いながら英語にも親しめる。科学が英語の入り口となってくれるので、CLIL (クリル：内容言語統合型学習) といった学習法にも向いている絵本だ。読み聞かせ絵本として使っても楽しめる。

そういった視点で見てみると、**An Egg is Quiet** (邦題：たまごのはなし) も、たまごの不思議に触れながら、



写真④：ストーリーの展開が魅力の絵本



「色」「形」「大きさ」「手触り」に関係した英語にも親しむことができる絵本だと発見！大人でも感動のたまごの魅力が詰まっているが、文章のシンプルさと洗練されたイラストのバランスがとてもいい。本の初めの部分にたくさん描かれているたまご。一つ一つにちゃんと名前が書いてある。絵本の後ろの部分にはそれらのたまごから生まれた生き物たちが勢ぞろい！という心憎い演出で、名前を頼りにたまごと生き物をマッチさせながら、自然に英単語に親しむことが出来る。

Lifetime (邦題：ライフタイム いきものたちの一生と数字)、**Ice Bear**(邦題：北極熊ナマーク)や**Sea Horse**(邦題：タツノオトシゴ)、**My Light**(邦題：わたしのひかり)。そして、インドの算数にまつわる昔話で、洋書はいつとき絶版だった **One Grain of Rice** (邦題：1 つぶのおこめ) なども見ごたえ読みごたえ抜群だ。(写真⑤)

■ 伝記絵本の魅力

最後に、偉大なことを成し遂げた人々についての絵本を取り上げてみよう。困難な状況の中で、考えて、努力して、行動する。悩んだり苦しんだりしながらも、希望をもって前に進んだ人たちのお話を、素晴らしいイラストと文章で教えてくれる伝記絵本。勇気と感動を与えてくれる。

たった 15 歳で「点字」を発明した少年をご存知だろうか？ **Six Dots** (邦題：6この点) の主人公はフランス人のルイ・ブライユ。幼い時に事故で目が見えなくなってしまっただが、本を読みたいと願い続け、その強い気持ちで点字の発明へとつながっていたのだと、この絵本を通してはじめて知った。目の見えないルイ・ブライユが自分の周りの世界をどうとらえているかを表現し

た挿絵は心に迫るものがあり、その表現力に引き込まれる。この絵本では、本文中にフランス語のフレーズが英語と並んでたびたび出てくるのも興味深い。日本語版もあわせると、日本語／英語／フランス語の簡単な言葉やフレーズを比べてみることも出来るだろう。

MOTTAINAI (もったいない) という言葉を世界に広めたワングリ・マータイさん。祖国ケニアの環境破壊に心を痛め、始めた植林運動が絵本になった **Planting the Trees of Kenya** (邦題：その手に 1 本の苗木を) では、マータイさんが育った緑豊かな大地の美しさ、その後大切な木が切り倒された風景などが心にしみるイラストで、環境保全の大切さを肌で感じる事が出来る絵本だ。

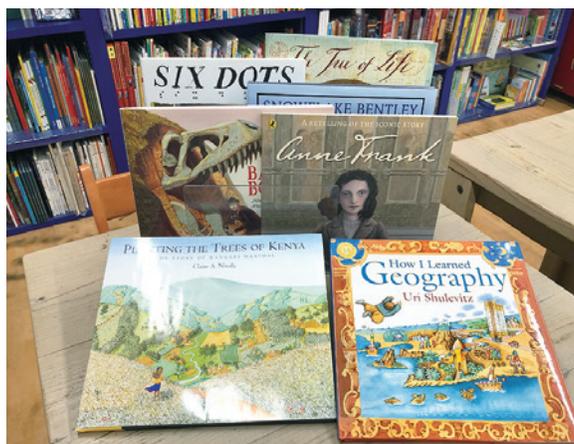
The Tree of Life (邦題：生命の樹 チャールズ・ダーウィンの生涯)、**Barnum's Bones** (バーナムの骨—ティラノサウルスを発見した化石ハンターの物語)、**Anne Frank** (邦題：アンネ・フランク) そして、絵本作家ユリー・シュルヴィッツの自伝絵本 **How I Learned Geography** (おとうさんのちず) など、伝記絵本ならではの深い感動を味わえる素晴らしい作品ばかりだ。(写真⑥)

■ 英語への第一歩は身近な作品から

このほか、大切なペットを亡くした悲しみを通して命の大切さを学んだり、空想の世界へ心を解き放ったりと、国語の教科書で紹介される絵本は子どもたちには何よりも身近な存在だろう。同じお話だからこそ、英語版でも手に取りやすく、言葉に対する興味が湧き、英語で読んでみたいという気持ちが芽生えるかもしれない。そんな期待が持てる素敵な絵本の数々だ。🌱



写真⑤：自然科学を題材にした絵本



写真⑥：伝記絵本